

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦舞
----	------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじんにほんぶようきょうかい 公益社団法人日本舞踊協会	団体ウェブサイトURL	http://www.nihonbuyou.or.jp/
代表者職・氏名	会長近藤誠一		
制作団体所在地	〒104-0054 東京都中央区勝どき4-6-2-410	最寄り駅(バス停)	都営大江戸線勝どき駅
電話番号	03-3533-6455		
ふりがな 公演団体名	こうえきしゃだんほうじんにほんぶようきょうかい 公益社団法人日本舞踊協会	団体ウェブサイトURL	http://www.nihonbuyou.or.jp/
代表者職・氏名	会長近藤誠一		
公演団体所在地	〒104-0054 東京都中央区勝どき4-6-2-410	最寄り駅(バス停)	都営大江戸線勝どき駅
制作団体 設立年月	昭和30年(1955年)12月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	会長 近藤誠一/副会長 織田紘二 古井戸秀夫/ 常任理事 吾妻徳穂 井上八千代 西川扇蔵 松 本幸四郎 / 理事 市山松扇 尾上菊之丞 猿若 清三郎 中村梅彌 花柳寿楽 花柳輔太郎 藤間 恵都子 水木佑歌 山村友五郎 若柳壽延/監事 泉翔蓉 中原徹/名誉顧問 國分正明 尾上墨雪 猿若清方 橘芳慧 花柳寿美 坂東勝友 藤間藤 太郎 松本白鸚 若柳宗樹/顧問 龍居竹之介	構成員/満15歳以上の日本舞踊家で、協会所 属流派の名取であること。 加入条件/この法人の目的及び事業に賛同 し、正会員2名の推薦を得ること。 会員数/ 3,402名 支部/26支部	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	城後一朗・山本真純
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	柳原幸子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@nihonbuyou.or.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>昭和24年2月、任意団体として日本舞踊協会設立。昭和30年12月、文部大臣から認可を受け、社団法人日本舞踊協会を設立。設立当初の会員数は2,488名で、それまで流派単位での活動が主だった日本舞踊界において、流派を超えて日本舞踊の普及発展に取り組む初めての公的組織として誕生した。以来68年、日本舞踊の魅力発信を図る公演事業を中心に、人材育成を目的としたコンクール公演、学校や地域で行うワークショップ、海外公演、映像作品の配信など、日本舞踊を通じて日本の文化の発展に寄与するためさまざまな活動を展開、実績と積み重ねてきた。平成24年4月には公益社団法人の認定を受け、さらに公益性の高い活動を行っている。現在では、会員数3,402名、傘下の支部・ブロックが全国31の都道府県に設置されており、全国的な組織として活動している。</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>昭和63年より当該事業に参加。 東京都主催「キッズ伝統芸能体験」に協力団体として平成20年度より参加。 東久留米総合高校定時制課程でのワークショップ(平成20～23年)、そのほか(公社)日本芸能実演家団体協議会主催の子供向けワークショップに多数参加協力。 平成27年度からは、アーツカウンシル東京主催、東京都助成・協力の都内の小中高校にて子供向けプログラム「子供のための伝統文化・芸能体験事業」(実演とワークショップ)を、平成28年度からは、新宿区教育委員会主催の体験プログラム「伝統文化理解教育事業」にて小学生を対象とした日本舞踊のワークショップを実施中。 また当協会の全国各支部・ブロックでも多数の子供向けワークショップを実施している。</p>			
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>鹿児島県立串木野養護学校(平成19年度本物の舞台芸術体験事業) 香川県立豊学校(平成23年度次代を担う子どもの文化芸術体験事業) 町田市立つくし野中学校特別支援級(平成28年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ) 東京都立八王子東特別支援学校・東京都立葛飾ろう学校(アーツカウンシル東京主催、平成28年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」) 岡山県立岡山支援学校(平成30年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ・本公演) 北九州市立小倉北特別支援学校(令和3年度文化芸術による子供の育成事業・ワークショップ・本公演) 東京都立町田の丘学園(アーツカウンシル東京・芸団協主催、令和3年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」) 東京都立葛飾ろう学校(アーツカウンシル東京・芸団協主催、令和6年度「子供のための伝統文化・芸能体験事業」)</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>http://nihonbuyou.or.jp/pages/school https://youtu.be/QFmHS1Zu-i0 https://youtu.be/9yzLSabGH8Q</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p></p>	
		<p>PW:</p>	<p></p>	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	「ひらけ！日本舞踊のとびら！」
-----	-----------------

企画のねらい	<p>日本固有の伝統芸能である日本舞踊には、こどもたちの“生きる力”を育むための要素が凝縮されています。プログラムでは、継承と洗練を重ねてきた日本舞踊ならではの表現を鑑賞し、実際に伝統的な楽器の生演奏に合わせて踊る体験を通じて、こどもたちの想像力や表現力、創造性を高めることを目指します。演目を鑑賞するのみでなく、聴く・踊る・発表する・共に舞台を創る体験を通じ、日本舞踊の幅広い魅力に触れることで、こどもたちが伝統芸能について学びを深めるきっかけとなり、国際人として他者との相互理解や多様性を受け入れる力を高めることを目標としています。</p> <p>日本の風土の中で生まれ、人から人へと繋いできた“型・表現”それらの根底にある“こころ・美意識”を伝承してきた伝統芸能としての特徴を活かし、定評のある実演家がこどもたちと間近な距離で指導や対話を行うことで伝統芸能や日本文化への興味関心を引き出します。</p> <p>また、プログラム内では、日本舞踊家、邦楽演奏家に加え、日本舞踊の舞台を彩る邦楽や衣裳、かつら、化粧、小道具、照明、音響など、スタッフワークや総合舞台芸術の側面も紹介。専門家の役割やその仕事の奥深さ、協調・協働することの大切さを学びます。</p>
--------	--

演目概要・演目選択理由	<p>「ひらけ！日本舞踊のとびら」と題し、“日本舞踊の世界に飛び込み、様々なとびらをひらきながら学習していく”という演出で進め、児童・生徒と一緒にさまざまな角度から日本舞踊の特徴や魅力を楽しく探ります。</p> <p>《鑑賞演目》「みる部屋」</p> <p>○長唄「藤娘」(初演:1826年) 日本舞踊の代表的な作品のひとつで、艶やかな見た目や繊細な心情表現・情感あふれる踊りが魅力の演目。日本舞踊を観たことがない子供たちに目にも記憶にも残る演目を選択しました。</p> <p>○長唄「浦島」(初演:1828年) 幅広い年代に知られる浦島伝説が題材の演目。二枚扇を巧みに扱うなど高度な舞踊技術の魅力に加え、舞台上で一瞬にして老人へと扮装を変化させる「ぶっかえり」という初演時より形を変えずに受け継がれている伝統的な演出形式を含み、子供たちの目に新鮮な舞台を届けられると考え選択しました。</p> <p>○長唄「四季のうつろい—百千鳥、紅葉笠より—」(初演:2024年)※共演場面あり こども向け事業で上演するために創作したオリジナル作品。日本の四季折々の風物や行事を踊りで表現。「藤娘」「浦島」では、白塗りのお化粧に役柄を表す華やかな衣裳を着用する【衣裳付け】の形式で上演を行う一方、本作品では、【素踊り】という特定の役柄の扮装や衣裳・小道具など装飾を排し、身体表現のみで作品の世界を描写する形式で上演。観る側の想像力、演じる側の表現力により成立する作品であり、また本曲を活用してワークショップに参加した児童・生徒の成果発表の場を設定。 観る・聴く・発表する・共に舞台を創る体験をして、日本舞踊の幅広い魅力を発見してもらい、伝統芸能への理解・興味関心を深める意図で選択しました。</p> <p>《体験・レクチャー》</p> <p>●「基本の部屋」 人から人へと伝承されてきた日本舞踊において、他者への礼儀は非常に大切な要素です。日本舞踊、しいては伝統芸能を知るうえでまずは綺麗な型を通した挨拶を学ぶことで、相手への思いやりや敬意を表す精神がその“型”に通じることを学びます。着物や畳での生活や日本文化の特徴を汲んだ特有の所作や美しい型を知ることで、他者を尊重し、思いやる気持ちを込めて表現することの大切さを体感し、実際に体験します。</p> <p>●「知る部屋」 日本舞踊が総合舞台芸術であるという側面について、それを支える職業(狂言方、小道具、照明、音響)についてもバックヤード見学のように学習します。また踊りに不可欠である伴奏音楽について日本の伝統楽器の生演奏の鑑賞、楽器紹介を通して日本舞踊と伴奏音楽との関わりを実演を交えて学習します。日本音楽の特徴を捉え、より理解を深めることで音楽教育における日本の伝統音楽・楽器への興味関心を高めることを目指します。</p> <p>●「おどる部屋」 先に学習した日本舞踊の要素を踏まえ、実際に日本舞踊を踊る体験。日本舞踊に代表される動作を体験し、その独特な身体の使い方、また型を学びます。 ※ワークショップに参加した児童・生徒たちの成果発表を行います。</p>
-------------	--

児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>各場面ごとに鑑賞と体験の両方を組み込み、プロの実演家から間近な距離で指導を行うほか、共演をしたり、作品を創り上げる楽しさを体感してもらいます。プログラムでは、「基本の部屋」「知る部屋」「おどる部屋」「みる部屋」のとびら(コーナー)を設け、そのうち「基本の部屋」では日本舞踊の基本となる綺麗な挨拶の仕方や基本姿勢を、「おどる部屋」では生演奏で日本舞踊を踊る体験を全員参加型で実施。また、鑑賞演目「四季のうつろい—百千鳥、紅葉笠より—」では、曲中の一部分をワークショップで事前に体験した児童・生徒が生演奏に合わせてその成果を発表する場を設けます。</p>
-----------------	--

児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	～500名(※体育館の大きさにより変動)		
			鑑賞人数目安	～500名		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「ひらけ！日本舞踊のとびら！」 プログラム構成・演出・振付・脚本：(公社)日本舞踊協会学校公演委員会</p> <p>鑑賞演目：長唄「藤娘」／長唄「浦島」／長唄「四季のうつろい—百千鳥、紅葉笠より—」</p> <p>【プログラム構成】 ○長唄「藤娘」(担当：中村梅彌) ●「基本の部屋」 ●「知る部屋」 ○「四季のうつろい—百千鳥、紅葉笠より—」(担当：猿若清三郎) ●「おどる部屋」 ○「みる部屋」 長唄「浦島」(担当：学校公演委員会選出の日本舞踊家)</p> <p>プログラムの他に日本舞踊覚書という教材を平行して利用し、日本舞踊をより深く理解する助けとします。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>					
出演者	<p>日本舞踊家／長唄「浦島」西川扇左衛門、長唄「藤娘」若柳美香康ほか 演奏家／長唄：杵屋五吉郎社中、鳴物：藤舎千穂連中</p>					
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>【当協会学校公演委員会メンバー】 (当協会役員(本プログラム監修)：中村梅彌・花柳輔太郎・山村友五郎・猿若清三郎／担当委員(舞台監督・舞台監督助手)：泉秀彩霞・西川扇衛仁・若柳吉優亮) *重要無形文化財「日本舞踊」総合指定保持者を中心とする当協会役員が監修のもと、長年、本事業に携わる委員がプログラムを担当。 *日本舞踊家(西川扇左衛門・若柳美香康ほか)は、文化庁と当協会共催事業のコンクール公演「各流派合同新春舞踊大会」各賞や東京新聞制定の日本舞踊新鋭賞を受賞するなど、新進気鋭の若手、実力のある中堅が出演。 邦楽演奏家(杵屋五吉郎・藤舎千穂ほか)は、歌舞伎興行や演奏会、当協会主催舞踊公演、国立劇場主催公演等に携わる第一線で活躍中のメンバーが担当。</p>					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 16 名	運搬		積載量： 3～4 t		
	スタッフ： 21 名			車長： 10 m		
	合計： 37 名			台数： 2 台		
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時頃	8時頃～11時頃	13時半頃～15時頃	10分程度	1時間半程度	～17時頃
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月		
	10月	11月	12月	1月		
		16日	9日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	25日	

<p>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</p> <p>※採択決定後、図面等の提出をお願いします。</p>				
<p>著作権、上演権利等の許諾状況</p>	<p>各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否</p>	<p>該当あり</p>	<p>該当コンテンツ名</p>	<p>百千鳥・紅葉笠</p>
	<p>該当事項がある場合</p>	<p>権利者名 公益社団法人日本舞踊協会</p>	<p>許諾確認状況</p>	<p>内部保有</p>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】

ワークショップのねらい	<p>子どもたちと日本舞踊の初めての出会い・体験の場となるワークショップでは、芸を継承する日本舞踊家が子どもたちと近い距離で積極的に交流を深めることで、日本の伝統芸能・日本の文化・芸術を身近に捉え、興味を引き出せるように工夫します。</p> <p>近年は、SNS等で場所や時間を問わず気軽に世界中のダンスに触れられるようになりましたが、本格的な日本舞踊を間近な距離で鑑賞・体験できる機会は極めて少ないため、まずこのワークショップでは日本舞踊がどのようなものなのか、身体いっばいに感じてもらうプログラムを実施します。</p> <p>代表の児童・生徒には、日本舞踊においてユニホームのような浴衣を着ることで、日本の伝統的の衣裳である着物を活かした動き(所作)を体験でき、日本舞踊の“型”をより本格的に学ぶことが可能となります。浴衣の着用の有無にかかわらず全員が体験を楽しめるように、浴衣を着た時に生きる所作・浴衣を着ると制限される動きを説明することに加え、浴衣を着て生活していた昔の人々の暮らしについてもクイズ形式を用いて解説を行うなど、児童・生徒が日本の伝統文化について興味関心を持ち、次の学びに繋がるよう工夫します。</p> <p>ワークショップでは、本公演の鑑賞演目である「四季のうつろい—百千鳥、紅葉笠より」の一部を、児童・生徒がお扇子をもってお稽古を行い、本公演では、演奏家による生演奏で舞踊家と共に踊る場面があります。成果発表とも言えるこの場面では実演家と児童・生徒が同じ舞台表現を経験することで双方が「踊ることの楽しさ」や「発表で得られる達成感」を共に得られるように、振りの指導だけでなく表現することの面白さ・奥深さを体感できるような指導を行います。</p> <p>踊り体験後の感想タイム・質疑応答の時間では、子供たちの目線に近い対話を交わし、言葉でも積極的に伝統芸能や日本舞踊の魅力を伝えることで、実演家への興味関心を引き出すことを意図しています。講師は子ども向け事業で幅広い経験があり、定評のある中堅日本舞踊家を筆頭に地元の日本舞踊家にもサポートを仰ぐことで、日本舞踊や伝統芸能についての身近に感じてもらう、理解を深めてもらうことを目指します。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	人数…学年単位の実施を想定 (~80名程度/最大200名程度) ※浴衣着用可能人数…最大40名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>「よーい！日本舞踊」</p> <p><u>1、始まりのご挨拶、基本姿勢</u> 日常生活にも活かすことができる日本舞踊において重要な礼儀、綺麗な挨拶の仕方、また着物や浴衣を着たときの綺麗な動き方を学びます。日本舞踊を踊る上での基本姿勢を体験。</p> <p><u>2、日本舞踊の基礎</u> 日本舞踊の“型”の基本が詰まった踊りの体験。 踊りで重要な身体の動かし方や拍子の取り方を曲に合わせて体験。</p> <p><u>3、「さくらさくら」</u> 日本舞踊の基礎を踏まえ、お扇子を使った踊り体験。 さくらにまつわる振りお扇の見立てを交えながら、「どのように踊るか」を児童・生徒各々が考え、表現する力、また踊りを見る想像力を養います。 同じ曲でプロが踊ると…？間近な距離で実演を鑑賞します。</p> <p><u>4、「四季のうつろい—百千鳥、紅葉笠より—」</u> ワークショップの成果として本公演で発表する曲のお稽古。 お扇子を持ち、拍子を活かしながら舞踊家と共に豊年踊りの一部を踊ります。</p> <p><u>5、感想・質疑応答</u> 日本舞踊を体験して疑問に思ったことを聞いたり、ワークショップで得た感想を発表するなど日本舞踊家と児童・生徒がコミュニケーションを取ります。日本舞踊への理解や興味関心を更に深める時間とします。</p> 		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>※浴衣の着付けや指導のサポートで、各校の近隣在住の日本舞踊家(当協会の協会員)にもボランティアで協力いただくことを想定しています。 ※ワークショップでは、代表の児童・生徒(最大40名ほど)に浴衣を着用して体験していただきます。</p>		

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 公益社団法人日本舞踊協会】
<p style="text-align: center;">本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 当協会は本事業の趣旨に賛同し、事業開始の昭和63年より参加してきた。日本舞踊は昨年、国の重要無形文化財に指定され、その豊かな芸術性と価値が広く認められたが、日本舞踊のような伝統芸能や日本文化は、学校教育の中でも中心的に学習される分野ではなく、また社会や生活様式の変化などにより、子どもたちが鑑賞したり体験する機会が極めて少ないのが現状である。日本人が日本という風土の中で生み出し、長年にわたって受け継ぎ発展させてきた日本舞踊には、日本人固有の美やユーモア、心の機微が舞踊という表現で凝縮されている。これらの魅力を有し、長い歴史をかけて継承しながらも、今なお進化を続けている日本舞踊を体験することは、次代を担う子どもたちが国際人として、物事に柔軟に関わる力や、問題解決能力やコミュニケーション能力等を高めることにも繋がる。子どもたちには日本舞踊に親しみ、日本の多様な文化芸術や豊かな生き方を体現する実演家と触れることで、自身の感性や文化芸術への関心を大切に育てていってほしい。</p> <p>事業の目的を達成するため行っている取り組みは以下のとおり。</p> <p>*実施体制について…国の重要無形文化財日本舞踊総合認定保持者を筆頭とした専門委員会を設置。協会役員と子供向け事業で経験豊富な舞踊家、事務局スタッフで構成する委員会を協会内に設置し、企画構成、演目・出演者・振付者の選定等について検討を重ねプログラムを制作。ワークショップ・本公演の際には、担当役員や振付者などが視察し、公演の質を保つよう努めている。また広報面では、ホームページやSNSなどを利用して、プログラムの広報活動にも力を注いでいる。なお、ワークショップの指導のサポートには、現地の日本舞踊協会会員とも協同して行っており、公演後も学校や地域からの要望に応じて、継続して伝統芸能教育に協力することも可能である。</p> <p>*制作について…台本作成時から公演当日まで学校側や各セクションと密な意思疎通を図る台本作成の際には、過去の台本や記録映像、他の子ども向け事業での取り組みを参考に直しを行い、子どもたちに楽しく体験しながら学んでもらうために、毎年改良を重ねている。児童・生徒に伝わりやすい解説・言葉選び・身近に感じる雰囲気づくり等にも配慮している。そのほか本公演での安全確保、環境の整備、各コーナーの細かい段取りについては特に各セクションのスタッフと入念にシミュレーションを行っている。学校の教員、出演者、舞台監督・大道具・衣裳・小道具・照明・音響・制作の連携により、各校の要望に即した鑑賞・体験型プログラムの上演を行う。日本舞踊家、演奏家、舞台を作り上げるスタッフともに子どもたちに文化芸術の魅力をお届けする案内役としての役割に責任と誇りを持って参加してもらえよう対話を重ねている。なお各関係業者には、事業の趣旨を踏まえ、通常よりも低廉な価格で協力を仰ぎ、経費の削減を図りつつも質の高いプログラムを提供できるよう努めている。</p> <p>*キャストイングについて…子ども向け事業にて豊富な経験がある若手実力派が出演。出演者には、例年、受賞歴を持つ舞踊家や東京都主催キッズ伝統芸能体験事業の講師経験者など、子ども向け事業で豊富な経験と実力を有する舞踊家から選出。実演を披露する出演者は、文化庁と当協会共催の日本舞踊のコンクール公演(各流派合同新春舞踊大会)での受賞歴のある中堅および若手の日本舞踊家である。振付者においても指導に定評がある舞踊家が担当し、本番に至るまで多数の稽古を重ねている。協会会員にとって出演が目標となるような事業として内部で位置づけ、公演のレベルを維持している。</p>
	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 実施校とは、事前連絡から実施まで一貫して密なコミュニケーションをとるよう心がけている。ワークショップ・本公演ともに基本の実施形態はあるが、最大限にこの機会を活用してもらえるよう、各学校のニーズに柔軟に対応する。ワークショップでの学習成果の発表のために、復習用の動画を提供するほか、「日本舞踊覚書」というイラストや写真をふんだんに使った教材をこの公演用に作成し全校に配布。本公演前の手引きとして、また鑑賞後の学びを、より深めてもらえるよう内容を工夫している。ワークショップの際は、各学校のご賛同のもと、各学校の近隣で活動している当協会の協会会員にも指導のサポートをお願いしており、地元の実演家と児童・生徒が近い距離で交流できる貴重な機会として好評を得ている。実演家が学校に赴き子供たちに日本舞踊の魅力を伝えることの意味を踏まえ、ワークショップ・本公演を通じて子どもたちと積極的に交流を図り、自分の思う日本舞踊の魅力を話すほか、身近な事柄を日本舞踊で表現するとどうなるかという実演をしたり、実演家になるきっかけとなったエピソードを話したり、子どもの視点に立ちつつも、実演家ならではの視点でメッセージを伝えるよう心がけている。ワークショップ・本公演では、教職員や保護者、地域の方々にも鑑賞してもらい、理解を深めていただくことで、本事業を通じて、学校や家庭でのコミュニケーション活性化のきっかけとなること、また、日本の伝統芸能の素晴らしさを改めて認識してもらうことを願っている。</p>